



船の祭典2010  
フェリーでECO体験スクール

---

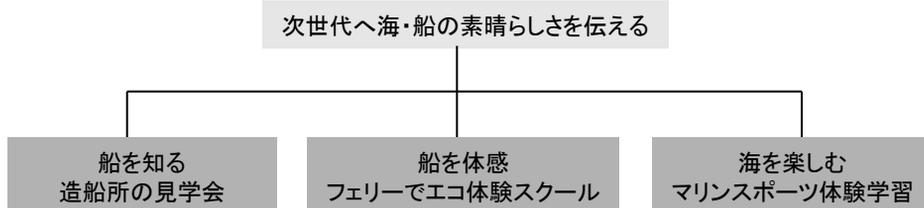
報告書

# 事業概要

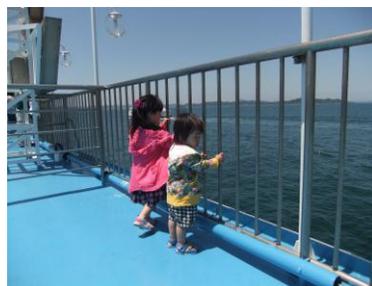
## フェリーでECO体験スクール

### ● 目的

「次世代に伝えたい、海や船の大切さ・楽しさ」をテーマに開催された船の祭典2010。こども達は地球の宝物。船と海への理解を深める体験事業のひとつとして「フェリーでエコ体験スクール」を実施しました。小学生の親子を対象に瀬戸内海の2時間の船旅を楽しみながら、海の上で地球の未来を考えました。海を美しく守ること、魚などの水資源を管理することが大切であることを楽しく学びました。



- 日時 平成22年5月30日(日)
  - 第1便 12:30～14:50
  - 第2便 16:00～18:30
- 平成22年6月13日(日)
  - 第3便 11:45～14:00
  - 第4便 16:00～18:30



- 場所 国道フェリー「こくどう丸」  
小豆島急行フェリー「あずき丸」

- 主催 船の祭典2010実行委員会

### ● 実施概要

1.出発式 2.エコレッスン 3.こどもエコ発表 4.船内見学会 5.エコヒーローショー 6.〇×クイズ大会



↓デザイン[オモテ]



↓デザイン[ウラ]



# 広報

- 仕様 A4サイズ  
両面カラー印刷
- 印刷枚数 5,000枚
- ウラ面は申し込み用紙

チラシを制作し、幼稚園・保育所・小学校・子ども会等様々な団体にご協力いただき広く配布しました。

また、船の祭典2010ホームページにも掲載の他、テレビ・ラジオ・新聞等でも紹介していただき、広く募集しました。

ご協力: NHK高松「ひるまえかがわ」、KSB「にこまるTV」、FM香川「JOY-U CLUB」、高松リビング新聞  
FM高松「Morningwave」「81.5HappyStation」四国新聞・オアシス、朝日新聞

## 応募方法

往復ハガキ・FAX・E-mailのいずれかに必要事項を明記の上ご応募いただきました。

## 抽選

定数を超える応募があったため、抽選を行いました。当選者にのみ乗船券を送り、当日持参していただきました。

## 応募総数

合計1779名の応募がありました。各便の内訳は下記のとおりです。

※乗船券送付数は来賓、協力団体の人数を含みます。

- 第1便 454名 (乗船券送付 200名)
- 第2便 304名 (乗船券送付 227名)
- 第3便 648名 (乗船券送付 243名)
- 第4便 341名 (乗船券送付 294名)
- 不備 32名

## 当日参加数

- 第1便 185名
- 第2便 223名
- 第3便 243名
- 第4便 239名

# 実施内容

## ウェルカム・出発式

### ●受付 国道フェリー施設内レストラン



当選者に事前に配布していた乗船券を持参していただき受付を行いました。受付順でA, B, Cとグループ分けをし、グループごとに順番に乗船をしていただきました。

### ●ウェルカム 乗船口



船長とスタッフが、こども達を笑顔でお出迎えしました。また、イベントテーマソングの「瀬戸のフェリー」をBGMとして利用しました。

### ●出発式 2F客室



こども1名に「出発します」と宣言をしていただきました。その言葉と同時にフェリーから汽笛を鳴らし、出発式を行いました。環境を守る正義のヒーローも登場し、こども達は大喜びでした。

### ●DVDの上映 2F客室

船内の映像機材を使って、海の不思議や船の大切さを伝えるDVDを上映しました。

### ●ポラロイド写真撮影サービス 2F客室 3Fデッキ

希望者にスタッフが記念写真を撮影し、その場でプレゼントをしました。  
[100枚×4便 合計400枚]

# こどもたちに海・地球の環境問題を楽しくわかりやすくレッスン エコレッスン・こどもエコ発表

## フェリーは地球に優しい乗りもの

クルマで走るより、CO<sub>2</sub>排出量が減っていく！

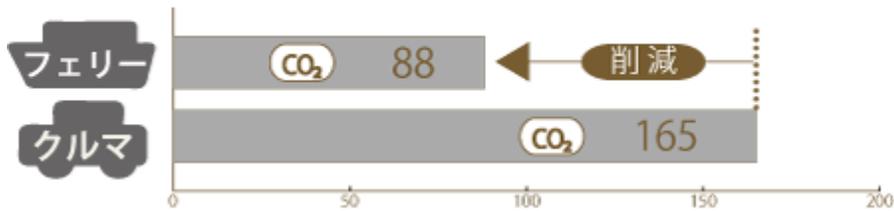
フェリーを利用すると、クルマで走るよりもCO<sub>2</sub>排出量は少なくなります。

例えば、神戸ー高松間を移動するのにフェリーを利用すると・・・

クルマで走るより、CO<sub>2</sub>排出量は15kgも少なくなります。

これは、国民1人が使うレジ袋約1年分(約260枚)のCO<sub>2</sub>削減に相当します。

1人を1km運ぶのに排出するCO<sub>2</sub>の比較 (g-CO<sub>2</sub>/人キロ) ※2



※2...グラフは環境省HP(地球温暖化問題への国内対策に関する関係審議会合同会議資料)より作成

### プログラム

- 1 地球温暖化ってなに？
- 2 海の環境問題について
- 3 海底には宝物がいっぱい
- 4 森は海の恋人
- 5 こどもエコ発表

船エコ博士がこども達に分かりやすい言葉で環境問題を解説しました。またこども達にも実験のお手伝いをしてもらい、参加型の楽しいレッスンになりました。

こどもエコ発表では「電気をこまめに消す」「歯磨きの時に水を出しっぱなしにしない」などこども達が暮らしの中で出来るエコ活動を考えて発表してくれました。



# フェリー操舵室見学会

3F 操舵室【20分】

ご協力: 国道フェリー株式会社様  
小豆島急行フェリー株式会社様

普段なかなか入ることのできないフェリーの操舵室の見学会を行いました。



# エコ・ヒーローショー

3F デッキ(雨天時2F客室)【15分】

ご協力: キャラクター創作オフィス  
WoM・BoX様

環境と平和を守る正義のヒーロー「蒼竜神マヴェル」のヒーローショーを行いました。こども達はマヴェルと一緒に環境を守ることの大切さを学び、これから地球にやさしいエコ活動をしていくことを約束しました。



# ○×クイズ大会

3F デッキ(雨天時2F客室)【15分】

海、船、エコに関する知識をクイズを通して楽しく学んでもらいました。





## お見送り

配布チラシデザイン

港に到着後、出口にキャストが並び、お見送りを行いました。船の祭典2010チラシや「海の生き物の絵募集」「船のエコキャラクター募集」のチラシの配布と海の目下敷きのプレゼントも行いました。また、アサヒビール様よりお借りした森を守る環境保全啓発ポスターを通路に設置し、関心を深めていただきました。



## 特別連携プログラム【第3便】

### ●神戸海事広報大使より応援メッセージ

海や港の大切さを紹介する活動をしている神戸海事広報大使の大矢哲紀くん、杉山浩大くんのふたりがスペシャルゲストとして参加してくださいました。フェリー会社への応援のメッセージと色紙の贈呈をしてくださいました。続けてフェリー会社を代表して国道フェリー株式会社宮脇幸次様からお礼のメッセージと記念品の贈呈が行われ、船の祭典2010実行委員長からも大使のふたりに記念品の贈呈が行われ交流を深めました。

### ●海難船舶鎮魂行事

紫雲丸沈没事故の鎮魂行事を執り行いました。事故現場となった女木島沖でフェリーが汽笛を鳴らし、梅原利之実行委員長と伊藤豊彦高松海上保安部長、参加のこども2名が海へ花束を投げ入れ静かに手を合わせて犠牲者の冥福を祈りました。

### ●海上パレード

高松海上保安部所属の巡視艇など計7隻がパレードや放水訓練などを行い、海の安全確保に努めることを誓いました。パレードでは登舷礼と言われる最上級の敬礼を各船の乗組員が、伊藤豊彦高松海上保安部長、梅原利之実行委員長、神戸海事広報大使の2名に対して行いました。高速連携訓練、放水訓練では、藤田義朝高松海上保安部次長がこども達に分かりやすく解説をしてくださいました。

# 特別プログラム

## ●国分寺キッズ演技

国分寺キッズのこども達が華やかなパフォーマンスで会場を盛り上げてくれました。



## ●船上エコライブ

フェリーでECO体験スクールのテーマソング「瀬戸のフェリー」を作詞作曲した、香川県出身のミュージシャン「タオル」のメンバー3人がライブを行いました。「瀬戸のフェリー」の他、親子で楽しめる楽曲を披露し、会場を盛り上げてくれました。



## ●劇団プチミュージカル演技

劇団プチミュージカルの皆さんが12月公演のミュージカル「レストラーレ」の中から1曲披露してくださいました。こども達は手拍子をしながら楽しんでいました。



# 絵画募集

海や船をテーマにした絵画を一般募集しました。

## ○ 船のエコキャラクター

募集期間 5月22日～7月31日

応募総数 25点

グランプリ 1点

優秀賞 10点



グランプリ

坂田 薫(小5)「ブーちゃん」

優秀作品展示

10月9日～10月17日宇高国道フェリーこくどう丸船内

12月22日～12月24日高松冬のまつり会場アイパル香川

船の祭典2010ホームページ内

## ○ 海の生き物の絵

募集期間 5月22日～11月30日

応募総数 82点

グランプリ 1点

優秀賞 10点



グランプリ

馬場 泰平(小4)「ぼくとウミガメ」

優秀作品展示

12月22日～12月24日高松冬のまつり会場アイパル香川

12月27日～1月11日宇高国道フェリーこくどう丸船内

船の祭典2010ホームページ内



# 報告レポート作成・配布

親子で船の楽しさや美しい海を守ること、エコ活動の大切さの理解を深めるきっかけを発信した本イベントが、多くの地域・場所で開催され日本全国に広がっていくことを願って報告レポートを作成し、香川県内の小・中学校や全国のフェリー会社、および関係機関への配布をおこないました。

## ●レポート送付先

### 【フェリー会社】

北海道	4社×2部
東北	4社×2部
北陸信越	3社×2部
関東	2社×2部
東海北陸	4社×2部
近畿	4社×2部
神戸	3社×2部
中国連	47社×2部
四国	28社×2部
九州連	51社×2部
沖縄県	16社×2部
その他	71社×2部
計	237社・474部

### 【香川県内小・中学校】

小学校	182校×6部
中学校	80校×3部
計	262校・1322部

### 【岡山市(一部)・玉野市小学校】

小学校	101校×1部
計	101校・101部

### 【実行委員会・事務局】 93部

**合計 600ヶ所・2,000部**



※配送先リストは別紙参照